

Development and Validation of a Novel Recurrence Risk Stratification for Initial Non-Muscle Invasive Bladder Cancer in Asia

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2016-03-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 家田, 健史 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001794

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 1651 号

The novel Prognostic risk stratification of patients with Non-muscle Invasive Bladder Cancer with recurrence and progression

(筋層非浸潤性膀胱癌の再発・進展に関する新規予後リスク分類の検討)

家田 健史 (いえだ たけし)

博士 (医学)

論文内容の要旨

筋層非浸潤性膀胱癌(NMIBC)の再発・進展予測に様々なリスク別分類が利用されているが、いずれも完全なものではなく EORTC リスク分類では計算が複雑、分類の偏りなどの問題がある。我々は現在利用可能なリスク分類における再発率・進展率の比較検討を行った。

6施設でTUR-BTを施行しNMIBCであった1,084例を対象とし、EORTC risk tableにおけるリスク分類別の再発率・進展率を後ろ向きに比較検討した。

EORTC リスク分類による5年無再発率はLow risk群65.2%、Intermediate-low risk群48.1%、Intermediate-high risk群34.8%、High risk群34.1%あり、Low から Intermediate-high risk 群間で有意差を認めた (Low vs Intermediate-low $p=0.006$ 、Intermediate-low vs Intermediate-high $p<0.001$) が、Intermediate-high・High risk 群間で有意差を認めなかった ($p=0.386$)。5年無進展率はLow risk群99.4%、Intermediate-risk群95.8%、High-low risk群88.2%、High-high risk群76.4%であり、Intermediate から High-high risk 群間で有意差を認めた ($p<0.001$) が、Low・Intermediate risk 群間で有意差を認めなかった。 ($p=0.156$)

再発率、進展率において単変量・多変量解析の双方ともに有意差を認めた項目を抽出、ロジスティック解析を用いてリスク点数を算出し、症例数が均等になるよう2群 (Low risk、High risk) に分類を行った。新リスク分類別5年無再発率はLow risk群55.7%、High risk群22.9%であり、5年無進展率はLow risk群96.9%、High risk群85.7%であり、各々で両群間に有意差を認めた ($p<0.001$)。

EORTC リスク分類は、計算が複雑、分類の偏りの問題があり、本邦の症例においてはリスク別の有意差が認められない部分が散見される。我々が提唱したリスク分類では本邦においてより正確なNMIBCの再発・進展リスクを予測できる可能性がある。